

これからも



交通安全ドールP・S委員会の皆さんと「弥勒菩薩」ドール

これまででも



交通安全ドールP・S委員会の皆さんと「弥勒菩薩」ドール
の皆さんの手で作られます。主な材料は、廃材や牛乳パック、絹糸など。桜沢のコミュニティセンター隣に設けられた制作スペースで、約60日間、延べ370人の方が制作に当たります。

すべて手作り

始まりは1981年
大字桜沢市内、国道140号と254号の交差点に、春と秋の全国交通安全運動に合わせ、大きな人形が設置されます。交通安全ドールP・S（プロジェクトサーピス）委員会の皆さんが制作する「交通安全啓発ドール」です。この活動は1981年から始まっており、今年で35年目を迎えます。これまで、71体のドールが制作・設置され、寄居町の交通安全を見守ってきました。

始まりは1981年

大字桜沢市内、国道140号と254号の交差点に、春と秋の全国交通安全運動に合わせ、大きな人形が設置されます。交通安全ドールP・S（プロジェクトサーピス）委員会の皆さんが制作する「交通安全啓発ドール」です。この活動は1981年から始まっており、今年で35年目を迎えます。これまで、71体のドールが制作・設置され、寄居町の交通安全を見守ってきました。

見守って35年。



交通事故が1件でも減るように

交通安全啓発ドール
幸せな家庭を一瞬で暗くしてしまう交通事故。誰もが交通事故に遭いたくない、起こしたくないと思っているのに、その数はなかなか減りません。交通安全ドールP・S委員会では、発足当時から一貫して「交通事故が1件でも減るように」の思いでドールを作り

交通安全啓発ドール

交通事故が1件でも減るように
続けています。月日が経ち、所属メンバーが変わっても、その思いは引き継がれ、変わることはありません。

72体目

「弥勒菩薩」ドール

交通安全啓発ドール
平成28年秋の全国交通安全運動に合わせ、9月18日に72体目となる「弥勒菩薩」ドールが設置されました。高さは約4メートル、重さは約300キロあります。弥勒菩薩は、慈しみから生あるものす

交通安全啓発ドール
べてを救う菩薩といわれています。悲惨な事故、死亡事故が起こらないようお願いを込めて、今回のモデルにしたそうです。制作の折には、桜沢にある龍源寺の丹羽住職に依頼し、お札をドールの中に入れて、魂が込められました。

そして、これから

交通安全啓発ドール
委員会のメンバーで、ドールの制作に15年以上携わっている松本

交通安全啓発ドール
清さんにお話を伺いました。「現在72体目までできましたが、これから100体、150体と続けていきたいですね。ただ、どれだけ続けても交通事故を減らしたいという思いは変わらない。今後でもできる限りこの制作に携わっていきたいと思っています。自分の体とドール、どちらが大切かと聞かれたら、ドールと答えますね」このような方々に支えられ、制作される啓発ドール。これからも、寄居町の交通安全を見守り続けます。



写真提供：松本清さん